



# つづく

## 2012年度「新聞広告クリエティブコンテスト」結果発表

日本新聞協会広告委員会は、新聞広告の活性化を目的に「新聞広告クリエティブコンテスト」を実施しています。今年度は「日本」をテーマに募集し、全国から1150作品の応募がありました。たくさんのご応募をいただきありがとうございました。クリエーターの副田高行氏、倉宏氏、児島令子氏、佐藤可士和氏、服部一成氏、前田知巳氏と広告委員会正副委員長による厳正な審査を経て、入賞作品を決定いたしました。入賞作品は当協会ウェブサイト(以下)で公開いたします。入賞者は次のとおりです(敬称略)。かつこ内は制作代表者の所属。

●最優秀賞「ニッポンは、つづく」代表：小林雅樹(ジエグラフィックス)、A.D.D.小林雅樹、C.神谷啓介  
○優秀賞「おつけ日本」根本式(東北新社)○コピー賞「染しみがあがる国代表」歌崎浩司(電通)、A.D.サンドウタカユキ、C.歌崎浩司○デザイン賞「ひとつづつ」代表：小柳祐介(電通)、A.D.小柳祐介、C.山本友和、P.H.藤野哲広、レタツチ。阿部宏介○学生賞「蓋をあける勇氣」蓋をしなない努力(近藤千鶴(専門学校桑沢デザイン研究所))※略号はA.D.アートディレクション、C.コピー、D.デザイン、P.H.フォト

●副田高行 審査委員長「現在の日本をワン・メッセージで伝え切るのは不可能ですが、最優秀賞の「つづく」は希望の言葉であり、「日本は続く、それである」と見入るの？」と見た人の心につぶてを投げかけることも読み取れる。インタラクティブな表現が広告としての力です。シンプルだけど深いものを感じました。オリンピックで感じたように、国旗が掲げると純粋にうれい。日の丸のデザインではなく国旗を使ったところもよかったです。優秀賞はエモーショナルな点が。コピー賞は最後の1行がいいですね。

●一倉宏 審査委員「日本と自分との関係を人間関係や恋愛関係に置き換えた作品があり、「いやなところもあるけど、やっぱり好き」というメッセージが印象的でしたが、今の若い作り手たちの実感でしょうか。一失われた20年」に育った世代でも、ポジティブで前向きな作品がたくさん見られました。最優秀賞は、国旗そのものをモチーフとした、いろんな意味で強い作品ですね。シンプルながらアイデアがあり、いばな広告的に強いという点で選ばれたと思います。

●児島令子 審査委員「日本をあらためて良い国だと思えたことが、今回審査してよかったこと。私は「日本を元気にする広告」という観点から、コピー賞に入賞した作品や、海外ですが高齢社会を「世界より10年長く恋できる国」と表現したものなど、短所を長所にする視点、だめだと言われていることも、前向きにとらえようとする作品を評価しました。入賞作品全部まとめて「日本」に対するひとつの答えのように思います。

●佐藤可士和 審査委員「難易度の高いテーマを前に、作り手が今まで一番もがいているのが感じられました。みんな今の日本には不満や問題意識を持っていて、他人任せではなく「自分事」としてなんとかしなきゃと思っている。その思いが伝わってきました。日の丸は、国旗の中でもすごく独特で、強烈なアイコン。タイマーや美意識が凝縮されています。最優秀賞はたたく固旗に日本という国の本質を感じました。

●服部一成 審査委員「日本」はテーマが大きすぎて難しかったと思いますが、最後には知恵をよこ絞ったものが残りました。優秀賞は、このひとつを聖徳太子に言わせたところがいまいち、「おちつけ」が腑に落ちる人、落ち着いている場合じゃないと反論する人、いろいろな反応を呼びそうな点もいと思います。学生賞は、2行のコピーにもシンプルな線画にもバランス感覚の良さがうかがえます。

●前田知巳 審査委員「応募作品はそれぞれ、つくり手によっては大きな日本観、あるいは等身大の日常観、実にいろいろなレイヤーでの「日本」がいろいろな表現されていました。結果、入賞作を並べて見るにつけ、例年以上に面白い個性が出揃ったのではないかと思います。中でも最優秀賞は「日本を元気にする」というお題の趣旨に実に鮮やかに、そして骨太に答えていました。「つづく」の中身は、きっとこの広告を見る人、各々の想像に託しているでしょう。

●上の作品..最優秀賞「ニッポンは、つづく。」

一般社団法人 日本新聞協会  
〒100-8543 東京都千代田区千代田2-2-11  
日本プレスセンタービル 03-3591-4407